

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）中間評価調書

都道府県名	愛媛県	事業実施主体	愛媛県、久万高原町	地域再生計画名	地域ブランド力向上で元気回復計画
計画期間	令和2年度～令和6年度	評価責任者	久万高原町総務課長 木下 勝也		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標		基準値		中間目標値			最終目標値		中間評価	達成状況		中間目標値の実現状況に関する評価
	指標1	指標2	基準年度	基準年度	年度	中間実績	基準年度	基準年度	指標総数		達成数		
	木材素材生産量の増加		18.9万㎡	H30	20.0万㎡	R4	20.0万㎡	20.8万㎡	R6	○	4	3	令和4年度は20万㎡を超える素材生産を行っているが、最終目標達成には高齢化やインボイス制度の影響が懸念される。
	林業振興及び森林機能の改善		0ha	—	2,400ha	R4	2888ha	4,000ha	R6	○	4	3	ウッドショックにより、近年低迷していた林業も活気を取り戻してきている。それにより間伐も進み森林の機能改善については目標に向けて取り組んでいる。
	道の駅「天空の郷さんさん」の年間利用人数		94万人	H30	97万人	R4	94万人	99万人	R6	×			新型コロナウイルス感染症の感染拡大と行動制限により、本町を訪れる観光客が減少したことから、目標値に達することは出来なかった。
	運動施設（公園）等の利用者数		2.7万人	H30	2.8万人	R4	3万人	3万人	R6	○			目標を達成しており、今後も引き続き利用推進に努める。

②事業の進捗状況	事業名	整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価
		計画	中間年度（R4）	最終実績見込み	
特別措置を適用して行う事業	町道整備事業（整備延長）	4.6km	0.24km	4.6km	計画区間の測量設計業務等を先行して行ったため、当初計画に対し、路線延長から見ると進捗率は、約5%と遅れが伺える。今後は整備業務を中心に事業を行うため、必要に応じて計画期間の延長も視野に入れるが、引き続き、計画に則した整備を目指していく。
	林道整備事業（整備延長）	7.5km	0.68km	2km	度重なる法面崩壊への対策や災害復旧事業との調整に不測の時間を要したことにより進捗確保に至らなかったものである。
その他の事業	—	—	—	—	—
計画外で独自に実施した事業	間伐等の助成事業	木材価格の低下等により森林施業を実施できない所有者に対し、除伐及び間伐等の補助を行い、下草の生える山林へと再生を図る。			個人が行う森林整備としての除伐及び間伐等への助成を行い、適切な森林整備を行うことで森林の有する多面的な機能の維持増進を図っている。R4年度までに約570haの除伐及び間伐が行われている。
	広葉樹林への転換事業	放置林等、町内の林家に対し整備の望めない林野については、災害の未然防止、水源涵養、自然景観の復活、花粉症対策、鳥獣による農作物被害など、懸念されるあらゆる問題への対応策として、長期的な視野に立った行政の積極的な介入によって広葉樹林への転換等の整備を図る（林野庁支援事業）。			広葉樹林化を図るとして、手法の一つには主伐（皆伐）しての再造林があるが、これには、直後の植栽だけでなく、長年の下刈り、除伐、保育間伐と多岐長年に渡る育林作業に長い年月と費用負担が掛かることとなるため、森林所有者のみの動機付けでは実現に至らない場合が多い。また、行政機関が公的に助成するにも、財源の確保だけでなく、育林に係る森林整備の担い手が圧倒的に足りていない現状がある。このため、当町においては平成17(2005)年に創設した「久万林業活性化プロジェクト事業」で間伐を推進しており、前回の間伐から5～10年後を一回りとしても2回目の間伐を迎える森林が生じており、これを繰り返すことで段階的に針広混交林により将来的な広葉樹林への転換を実現することとして、関係事業者と協働し鋭意取り組んでいる（参考：直近年度の久万林業活性化プロジェクト事業による）。
	景観整備事業	主要国道、県道からの景観を損ねる立木についても、冬季の路面対策なども考慮して、積極的な伐採を行い、「快適なドライブ＝海沿いの道」の概念を崩し、美しい山並みのドライブコースとしての景観を整備し観光入り込み客の増加を図る（久万高原町単独事業）。			えひめやまなみ燦々風景街道の活動を支援する形で、景観伐採に取り組んでおり、令和2年度には、国道33号沿いと国道440号沿いの見通しの悪い箇所、令和4年度には、国道33号沿いの見通しの悪い箇所の景観伐採を行った。
	森林体験学習事業	町内外の小中学生及び保護者を対象に整備された森林公園等を利用して、森林の持つ機能の大切さ、森林を守ることの重要性など、学習会を通じて正しい森林の知識普及を図る（久万高原町単独事業）			近年の山林におけるの蜂やマダニへの対応により森林公園を利用した体験学習は控えている。町内の中学校においては、林業施設見学を行い、VRチェーンソーやハーベスタのシュミレータ体験、ドローンの操作などを行い、現代の林業を体験することで、森林・林業の知識の普及を図った。小学校においては林業を営む父兄も参加した木工教室を行い木材の加工を行った。また、小学校においてしいけ植菌教室を開催し原木の穴あけから仮伏せ作業を行い、木材・林産物への意識向上を図っている。
	木育推進事業	ウッドスタート宣言町として、新生児に対する町オリジナルの木のおもちゃをプレゼントする。また、町内の各施設に木製の玩具を整備し、町内外へ「木のまち久万高原」をアピールする（久万高原町単独事業）。			9～10か月健診時に町オリジナル木製玩具、久万高原ハウス・でんこ人形のどちらかをプレゼント（実績：19人/対象者：25人）林業まつりにて木育キャラバンを招聘し町内外の多くの親子に楽しんでもらえた。また、先駆けて町内の幼稚園・こども園スタッフ、上浮穴高校生を対象に、木育インストラクターの養成講座を開催し、計36名のインストラクターが新たに誕生した。さらには、日頃から町内の子供達には木製玩具に触れてもらおうと全幼稚園、こども園に木製玩具を整備した。
	地方創生推進交付金（山紫水明ワンダーランド久万高原形成事業）	観光ブランド戦略の構築、町有観光施設のリノベーション、民間事業者の活性化（内閣府支援事業）			石鎚山系を取り巻く自治体と共同で観光DMCを設立し、地域ブランドの発信、道の駅他の観光施設のリノベーションを行いつつ、町内商工事業者等への支援も行いながら、地域活力の創造が進められている。
	地域スポーツ活性化事業	ラグビー場の人工芝化を契機に、ラグビー以外の種目の多目的利用促進を図り、町内外施設利用者の増加を目指す。さらには、その他既存スポーツ施設の活用を見直し、住民の健康増進を図る（久万高原町単独事業）。			久万高原町ラグビー場について、ラグビー使用が無い空き時間に、サッカー・グラウンドゴルフなど多目的利用促進を図った。

③評価方法 久万高原町総合戦略推進会議において、総合戦略の推進に併せて、中間目標値の実現状況に関する評価・検討等を行った。

④中間評価の公表方法 久万高原町ホームページに掲載する。

⑤計画全体の総合評価 本地域再生計画では、道整備交付金を活用して町道と林道を一体的に整備することにより、施業や運搬など木材生産の効率化を図るとともに、併せて行う地方創生推進交付金（山紫水明ワンダーランド久万高原形成事業）により、着地型観光商品の掘り起こしや、木材の生産・利活用の提案ができる起業家の発掘及び育成を図ることで、「木のまち久万高原町」というブランドイメージの成熟を目指している。最終目標の達成には高齢化やインボイス制度の影響等が懸念されるが、中間目標は概ね達成できているため、引き続き地域再生計画の事業展開を図っていくものである。

⑥今後の方針等	中間評価結果の反映状況		有りの場合その具体的内容
	地域再生計画の見直し（有・無○）		
	令和6年度予算要望額への反映（有・無○）	—	
	有りの場合の増減額	— 千円	

⑦今後の方針等に対する対応 本地域再生計画においては、整備が思うように進んでいない状況もあるが、森林整備や観光・交流人口の増加等も含め、概ね目標達成が見込まれる。このため、引き続き、本地域再生計画に沿って事業を推進していく。また、更なる森林整備や観光・交流人口の増加を図るために、災害対策や将来のエネルギー需要を考慮した山林の広葉樹化の推進や林業を観光に活用する新たな観光事業の推進、施設の木造化を進め、「木のまち」を町内外にアピールし、ブランドイメージの向上など、本町の強みである「林業」を広く活用する取組みを行いたい。